

最終講義その1 やりたかったこと

九大に来た2009年頃、霞が関で感じていたのは、強い危機感でした。つまり、人口減少、地域経済の疲弊、国際競争力の低下です。その処方箋として政府では、中央集権ではなく地方がそれぞれ海外とつながって世界の活力を取り入れる分権改革、道州制が語られていました。私も国に依存しない自立的な広域経済圏を形成することがその問題を解決すると考え、自立的な統治機構を作り、それを担う人材の育成をやりたいと考え、九州大学に来ました。

2009

霞ヶ関で考えていたこと

危機感

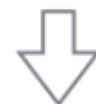
人口減少
地域経済の疲弊
国際競争力の低下

政府の処方箋

道州制

地方分権改革

広域地方計画



グローバル経済の活力を取り入れる

経済を開放

人材の集まるプラットフォーム

それぞれの地域が世界とつながる

自立的な広域経済圏の形成




やりたかったこと

グローバル競争に勝つ九州を実現するために

自立的な統治機構を作る

国の出先機関改革
手上げ方式

自立

自分で課題を発見し政策を企画立案できる人財 
政策を発信し関係者を説得し施策を実現できる人財 
問題を放置できない熱いパッションを持った志の高い人財 

地域政策デザイナーの養成